

「中種子町立野間小学校のアッチャメ踊り伝承活動の取組」

1 学校名

中種子町立野間小学校

2 学年・人数

6年生40人 5年生44人 (計84人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年9月 体育の授業（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月20日（日） 小学校運動会（本校運動場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

下田集落「アッチャメ踊り」（しもだしゅうらく「あっちゃめおどり」）

(2) 由来

歌に唱われている、下田嘉太郎という人が150年ほど前に中種子町の下田集落に住んでいた。馬の鞍作りが主な仕事だったが、親の代から下田集落で船を持ち、鹿児島や大阪方面と交易を行っていた。この交易の際に県外の文化に触れたと推測されている。

種子島では、人柄の良い者や容姿が優れる者、人と違った事を行う者を歌にして唱う習慣がある。下田嘉太郎も人柄が良く容姿が優れていたため、歌にして「下田嘉太郎」として踊り継がれている。

(3) 構成等

下田集落に伝わるアッチャメは、始めはゆっくりと歌うが、後半に進むほど速く歌い、踊りもそれに合わせて速くなる。衣裳は浴衣に腰下、白足袋、襷がけ、手ぬぐいでほおかむりである。竹筒に銭を入れて音を出し、片手に持ち替えながら音を鳴らして踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

下田アッチャメ保存会から講師を招き、毎年9月頃に5・6時間目の体育の授業で伝承を行っている。平成30年度からは、当日の歌や太鼓も児童が担当している。歌詞の意味や、踊りの振り付けがどのような役割をもつのかを直接、伝承者から聞くことで児童も新たな伝承者として学んでいる。現在は、運動会で披露することが毎年の恒例となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

体育の授業で実際に踊っている地域の人から歌の内容を教わり、講師が居ないときは上級生から下級生へと指導を行うことで、伝統を引き継いでいくことの大切さを学べるようにしている。

踊りに使う竹筒を空き缶で代用した道具を手作りし、ねじり鉢巻き様の手ぬぐいを準備して、踊るための気持ちを高めている。

7 取組の様子



【体育の授業での練習風景 1】



【体育の授業での練習風景 2】



【運動会での発表】



【運動会で発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想

- ・ 歌詞や振り付けの意味を知ることができてよかった。(児童)
- ・ 自分たちで歌詞を覚えて歌を歌うのは、おもしろかった。(児童)
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、運動会の開催が危ぶまれたが、発表することができてほっとした。(教員)
- ・ 見応えのある踊りで、とてもよい記念になった。(保護者)